



AMS MathSciNet インタビュー



数学研究の必須データベースである MathSciNet について、お話を伺いました。

千葉工業大学 先進工学部 教育センター(先進工学部)

軍司 圭一 教授

MathSciNet は数学研究にとっての羅針盤のような存在

研究は主に、この事象について調べてみたいといった漠然とした思い付きから始まることが多いが、まずは先行研究について調べてみるのが必須である。すでに結果が知られていることもあるし、まだ未解決の問題であったとしても、どのようなアプローチがとられているか、問題点はどこにあるかなど、調べるべきことは多岐にわたる。その際、特に数学では、この雑誌さえ押さえておけば大丈夫といったような論文誌はない。数多ある論文誌のどこに自分の求める情報があるのか、調べてみるまで見当もつかない。また、数学という学問の特性上、近年発行された雑誌にすべての情報があるわけではなく、数十年前の結果から全く進んでいないということもざらである。そのような状況で、ほとんどすべての数学雑誌の情報を網羅した MathSciNet というツールは、欠かすことのできない羅針盤のようなものである。

最新の研究状況を調べる必須のツール

自分の研究対象の現時点での発展の様子を見る際、直接キーワードなどで検索する方法もとれるし、過去にそれらの研究を行っていた数学者の名前で検索し、その人の現在の仕事を確認するという方法も取れる。特に後者の場合、その論文をきっかけに新たな問題意識を持つなど、研究の幅がさらに広がっていくという好循環を生むことがある。

自分は大学院生のときに初めて、それまでの教科書の講読から研究・論文執筆の段階へと進んだが、その際まず最初に紹介されたのが MathSciNet であった。まずは検索し、タイトルから興味を引くものがあったら、レビューを確認してみるという一連の流れは、それ以来日常的に行っていることである。実際、その時点での最新の研究状況を調べることができるツールなしには、数学の研究は成り立たない。

今後の MathSciNet に期待する点

現状の MathSciNet は、著者名、タイトル、掲載雑誌など様々な情報からの検索が可能で、シンプルにして非常に使いやすい。また論文へのリンクも充実しており、公式な電子データへのアクセスがしやすい点もありがたい。論文の参考文献を記述するとき、MathSciNet で調べた情報をそのまま写すだけでよいので、その際にも重宝する。

今後期待する点としては、現在は、レビューの執筆は有志にお願いして行われているが、最新の論文にレビューがつくまでに時間がかかることがある。管理は大変であろうが、例えば論文に対して評価ではなく内容紹介のコメント欄を設けるなどを検討していただくと、より活発な議論が行われるのではないかと。

(AMS, USA / 日本国内総代理店 丸善雄松堂)

— MathSciNet のご利用・ご導入にあたってのお問合せは、最寄りの丸善雄松堂 営業支店または下記までご連絡ください —

M MARUZEN-YUSHODO ・掲載製品はリバースチャージ対象製品です

丸善雄松堂株式会社【学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部】

〒105-0022 東京都港区海岸 1-9-18 国際浜松町ビル TEL 03-6367-6114 FAX 03-6367-6184 e-mail: e-support@maruzen.co.jp